

古鳥が鳴いてました。ビールや清涼飲料の売上げもがたべりとか。これから秋に向かって、稻をはじめとする農作物に低温や日照不足の影響が出てくるのでしよう。

実験所の実習でも潜水観察実習は学生たちが寒さに震え上がつて、時間を短くしたりあまり泳がなくとも良いところに場所を変えたりとてんやわんやでした。

陸の上は稻に害虫がわいたり穂が出なかつたりと、天候不順の影響が分かりやすいですね。でも、海の場合はいろんな要素が絡み合つるので影響が分かれにくいのです。季節外れのブリの大漁があつたりして、天候不順の影響らしい現象があるほらと聞こえてきますが、詳しい影響が分かるにはもう少し時間かかるかかるでしょう。

この夏はさんざん天候でしたね。やたらに肌寒くて雨ばかり。海水浴場やプールは閑りだつたので、腕が棒のようになつてしましました。

日本海に遊ぶ

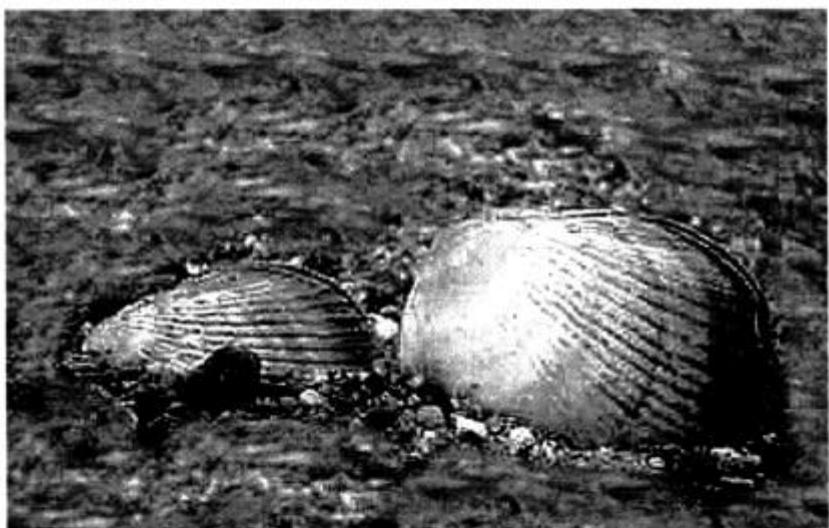
京都大学水産実験所職員
上野 正博

一番寒かつたときは20人以上の学生が泳げなくなってしまい、沖に停めた船と磯の間を手漕ぎボートでピストン輸送。20以上もボートを漕いだのは久しぶり

さて、天候不順の影響つていうと悪いことを思い浮かべるのです
が、ひょっとすると来年はトリガイヤヨシエビ、シャコなど、舞鶴湾や宮津湾の海底に暮

らす生物が豊漁になるかも知れません。

塊が形成されることがあります。東舞鶴のフエリー埠頭のあたりでは海底に暮らす生物が全くいなくなることも珍しくはないのです。



来年は豊漁？　丹後トリガイ

とんど貧酸素化しながら
つたようなのです。つまり、この夏は海底に暮らす生物にとつて酸素が沢山あつて過ごしやすい夏だったわけです。瀬戸内海ではこの秋、エビやカニ、それを見るのが豊漁になりそうだと噂されています。さて丹後の海はどうなるでしょう。